

## TTC 提案山行実施記録表

2012年10月2日 報告者:関喜義

山行名	北アルプス 燕岳(2763m) ~ 餓鬼岳(2647m)			長野県					
実施日	2012年9月28日(金) ~ 30日(日) 2泊3日 マイカー2台利用								
天候/参加人員	天候: 実行欄記載 レベル: ★★★ 参加者: 申込12名/実施7名(男3名/女4名)								
スタッフ	CL:、SL/計画:、会計:、救護:、写真: ドライバ:/ /			スタッフ名削除					
参加者	氏名削除								
費用	集金: ¥213,500 (@30,500×7人) 支出: ¥211,980 支出内訳: マイカー使用料¥8,800 (@10×440キロ×2台)、燃料代¥15,950 (@145×440/8×2台)、ドライバ謝礼¥20,000 (@5,000×2日×2台)、タクシー代¥23,630(往12,140+復11,490)、高速料金ETC有車: ¥4,900(相模湖IC~豊科IC¥2,850+豊科IC~相模湖IC¥2050)、高速料金ETCなし車: ¥8,200(相模湖IC~豊科IC¥4,100+豊科IC~相模湖IC¥4,100) 燕山荘宿泊代¥66,500 (@9,500×7人)、餓鬼岳小屋宿泊代¥63,000 (@9,000×7人) CL・計画者電話代¥1,000 収支差額: ¥1,520 (¥213,500-¥211,980) =カンパ金								
計画と実行タイム(歩行/休憩/行動時間)									
行動日	9月28日(金)		9月29日(土)			9月30日(日)			
時間区分	歩行	休憩	行動	歩行	休憩	行動	歩行	休憩	行動
ガトブック	4:30	—	—	6:30	—	—	5:00		
計画	4:15	0:50	5:05	7:00	2:30	9:30	5:30	0:50	6:20
実行	<b>4:30</b>	<b>1:40</b>	<b>6:10</b>	<b>7:40</b>	<b>2:15</b>	<b>9:55</b>	<b>6:15</b>	<b>1:15</b>	<b>7:30</b>
実行コースタイム記録									
◆9/28(金) 天候:晴れ (累積標高差登り1350m/歩行距離4km)									
(マイ駐車/タク乗換)			0:50		0:35				
本厚木コーカドー前==談合坂==安曇野観光タクシー==中房温泉--(休憩1回5分)--第1ベンチ--(休憩1回10分)--第2ベンチ--									
4:00	5:25/5:45	8:05/8:20	8:55/9:05	10:00	10:45/10:50				
0:35	0:40	0:35	1:15						
(休憩1回5分)--第3ベンチ--(休憩1回5分)--富士見ベンチ--合戦小屋--(休憩2回15分)--燕山荘									
11:30/12:00		12:45/12:50	13:25/13:45	15:15					
◆9/29(土) 天候:晴れ (累積標高差登り550m/下り650m/歩行距離7km)									
0:30	1:00	1:10	0:55						
燕山荘--燕岳--(休憩2回10分)--東沢乗越下山口--(休憩2回10分)--東沢乗越--(休憩1回10分)--東沢岳--									
6:45	7:15/7:25	8:35	9:55/10:05	11:10/12:00					
4:05									
(休憩5回35分)--餓鬼岳小屋									
16:40									
◆9/30(日) 天候:くもり (累積標高差下り1700m/歩行距離7km)									
(餓鬼岳ピストンは実行タイム外)			2:15	1:55	2:05				
餓鬼岳小屋--餓鬼岳--餓鬼岳小屋--(休憩4回25分)--大風岳--(休憩2回15分)--ガレ場下水場--(休憩2回15分)--									
5:15	5:20/5:45	5:50/7:00	9:40/9:45	11:55/12:10					
白沢三俣P==安曇野観光タクシー==八ヶ岳SA==相模湖IC==本厚木									
14:30	15:15/15:30	16:45/17:10	19:20	21:40					
コースの概要、特記事項、反省事項等									
▼9月28日(金) 晴れ									
<p>気まぐれにやってくる台風の一過を期待しての山行となった。台風18号は出発時の1時間ほど前に関東圏へわずかに触れて東方へ過ぎ去った。ラッキーだ。穂高町の田園をすぎ北西に車が進むと、有明山神社あたりから中房川沿いに道になる。そこから中房温泉までつねに右手にどっしりと立っている信濃富士こと有明山は、深田久弥が昭和33年から日本百名山を「山と高原」に連載したうちの98番目の山だった。ただ、残念なことに唯一未登のまま昭和38年に百座の連載をおえてしまった。その後、単行書として刊行するまでの1</p>									

年間に推敲がくわえられ、その間に登ろうとしたが道荒廃のために登れず仕方なくほかの山にチェンジしている。そんな深田が愛し一旦は百座に入れた山を、わたしはこの3日間いつも眺めて慈しんでいた。今回はKさんとCLの自家用車2台で安曇野にあるタクシー会社の駐車場に車を止め、ジャンボタクシーに乗り継いだ。

中房温泉登山口から快晴の中を総勢7名で登り始めた。合戦尾根の取り付きは急登ではあるがテンポ良くベンチが置いてあり心臓がとても助かる。若いころ合戦小屋のスイカを買うのにお金の算段をして、1個を4人で折半し割った記憶がふとよみがえった。合戦小屋まで来ると樹林帯とも別れ、ここからは秋とは思えないくらい強い陽射しを浴びながら高度を稼いだ。紅葉が美しく明るい。合戦ノ頭をすぎてしばらくすると、Yさんがブロックン現象を発見、半円ではあるがくっきりと全員が自分の影を楽しんだ。バルタン星人のように手の影が異様に太く大きくおもしろく映っていた。ゆっくり登ったつもりだが意外と早くきょうの頂き(燕山荘)に着いた。そこは遮るものが一切なかった。夕暮れになると北アルプスの主峰群が一同にしてきちんと名乗りをあげてきた。雄大な美しさが遠くの方まで広がっている。その山々の形が空に消えるまで見飽きることはなかった。これだから山登り山恋はやめられない。あすの晴れを約束してくれた夕日の残像をしっかりと胸にいだき寝ることにした。

#### ▼9月29日(土) 晴れ

ひとたび山のこととなると実に冴えてくる。予定よりも早く目覚め、寢床の中ですぐにきょうの行程がくっきりと地図になって頭の中で自動的に展開する。想像していた景色も付いてくる。仕事ではこんなに早く頭が回転しない。東の空が薄明るくなってくると、はらかな果てから黄金の輝きを帯びた火の玉がすーと出てきて、高層に点在する帯状の雲を徐々に赤く染め上げてきた。それは直視できないほどまぶしく完璧な日の始まりだった。空は青くきれいに澄んでいて、南アルプスの北部から南部まで、八ヶ岳連峰の全景、その間に入る富士山の裾野からの雄姿、近くにある北アルプスの親しい山々もはっきりと見えた。

つい出発も意気込んでしまい、小屋から30分ほどで燕岳へ着いた。ここから先へは登山者も少なく求めていた静かな山歩きが始まる。白色の花崗岩をキャンパスに明るく配色された紅葉盛んなエリアに入ってきた。UさんとWさんお勧めのこのすごい景観は、季節限定賞味期限付きで滅多に見られるものではない。一枚一枚を丁寧に並べた紅葉は、言葉よりもIさんが撮ってくれた写真が確実に証明してくれる。ほんとうに来た甲斐がある。きょうは終始展望がきき、このような稜線歩き(巻き道も多かった)は登山冥利に尽きる。深田久弥がヒマラヤ探索をおえた昭和42年、あらためて日本のよさを著した「瀟洒なる自然」に秋の代表格として餓鬼岳を紹介している。ひと言で日本の秋は紅葉黄葉がデリケートだという。外国にはない日本固有の美を語っている。この紅葉はわたしたちをあざむかなかった。

食堂兼寢床となる餓鬼岳小屋には多くの登山者がいて、われわれは単独のバンガローに案内され、まわりを気にしないですむ宴会ムードへと心が一気に移った。ちょうど8人ぐらいが適度の広さだった。ところがつかの間、急遽3人の登山者が遅れて入り、われわれの一刻城はもろく崩れてしまった。それでもTさんが「どうぞどうぞ一緒に呑みましょうよ」と小さくなって3人へ積極的にやさしく声を掛けてくれた。それが原動力になって10人の輪(和)となった。袖触れ合うも他生の縁という。山へ行く人間は高みへ行こうが低かろうが、ベテランであろうが初心者であろうが、早かろうが遅かろうが、関西であろうが関東であろうが皆同じ山仲間であることをこれからも忘れないでいたい。楽しい一夜となった。

#### ▼9月30日(日) くもり

2日連続で美しく素晴らしいご来光となった。近くの燕岳、野口五郎岳、針の木岳、蓮華岳へはひときわ強く陽があたっていた。同部屋のひとと合わせて10人だけで餓鬼岳を占有してしまった。皆360度の光景を丹念にカメラへ収めていたが、わたしは高瀬川溪谷の向こうにある北葛尾根を眺めていた。1584年12月、戦国の武将佐々成政が「さらさら越え」をしたとみられるルートのひとつだ。忍びの道でもある。熊の毛皮1枚で身を包み立山からザラ峠、針の木谷から北葛岳、そして鳩峰へと当時のつわものが駆け下りていったという。わたしの嗜好はその尾根の斜面からしばらく眼を放すことができなかった。雪の中を家康の居る浜松まではまだまだ遠くて寒かったはずだ。目的は違うが厳冬期の日本アルプス登山史に残しておきたい史実だと思う。

小屋を出てすぐの百曲がりには長くてもこの時期は飽きない。紅葉の真っ只中で下りの長さを忘れるほど見事なアーケードだ。大風岳、ガレ場、水場をすぎると沢下りもあり、ロープやハシゴの連続で難渋な登山道だった。気象的にあまりいい兆しではない中を白沢三俣へ14:30に着いた。待ち合わせたジャンボタクシーに乗るとじきに強い風を伴う大雨になり、台風17号の暴風圏に入ってしまった。間一髪とはこのことかも知れない。一浴してビールでのを潤す行事は省略し、一途にして帰路に向かった。

#### ▼特記事項

- TTCの「自然を愛し、山を愛し、人を愛し」の基本理念が浮かぶ。大自然に触れ、紅葉がきれいな山並みを観賞し、山仲間や歴史の人を尊ぶことが十分にできた山行となった。
- 丸山新道は尾根歩きを想定していたが、高低差のある西側への巻き道の連続だった。
- 水場から白沢三俣までの乳川沿いの歩行は、雨天時には厳重な注意を要する(今回は雨なし)。増水による渡渉困難やハシゴ・ガレ場のスリップ滑落による致命傷につながる確率が非常に高いコースであると感じた。